

最多のエントリー

昨年上回る275人

今年も2日間で実施



【写真は開催コースの志摩シーサイドCC】

＜10月30日＞

女子優勝・花山悦子(59歳、ミッションバレー)

ネット70(H10、グロス80)



初出場初V。「まさか優勝するとは。ドライバーが悪くて、拾い拾いのゴルフでした」。3オン3パットのダブルボギーが前後半に1個ずつありながら、アウト41、イン39の80にまとめた。今年は九州女子シニアで2打足りずに全国大会出場チャンスを逃した。そのお返しとばかり、今大会

は「ジャパンがあるから出よう」と出場を決めて、見事頂点に立ったのだった。

福岡市東区で土木関係の会社を経営。「ゴルフをしながら営業をしています。いいツールです」と花山にとってゴルフは生活の一部どころか、大きなウエイトを占める。

クラブを握り始めて20年。元々、バレーボールをしていたが、左膝を脱臼してからゴルフに転向。本格的に競技に参加して12～13年が経つ。これまでホームコースのミッションバレーGCでレディース選手権を4度制し、日本女子ミッドアマや日本女子シニア出場の経験も持つ。「ぜひ頑張ってきたい」と得意とするウエッジを武器に全国大会での活躍を誓った。

【文中の写真は㊦九州ゴルフ連盟の水田理事長と花山】



【上位入賞の選手たち】



【全国大会への出場権を獲得した選手】

男子優勝・矢次行登(68歳、有明)

ネット64(H10、グロス74)

68歳での頂点。ゴルフを「若さを保つ秘訣」と言い、競技ゴルフを「勝負事で面白い」と力を込める。今大会出場は5、6年ぶりだそうだが、それには理由があった。今年の九州ミッドシニアの福岡県南部地区予選は、この志摩シーサイドCCで開催され、矢次は81を叩いて、予選落ち。今回は前半のインを3バーディー、2ボギーの35、後半のアウトは1番から3連続ボギーと苦しんだが、その後の6ホールをパーでしのいで39。グロス74をマークし「ミッドシニアのリベンジを果たした」と静かに喜んだ。



ゴルフを始めたのはサラリーマン時代の38歳から。月1ゴルファーだったが、46歳の時に有明CCのメンバーになってから、のめりこむようになる。57歳でシングル。クラブの3大競技のうち、シニアとキャプテン杯は1度ずつ手にした。

女子プロ・岡本綾子のスイングを「力みなく飛ぶ」とあこ

がれる。現在のドライバーの平均飛距離は220ヤード、ベストスコアは有明CCでの73。ゴルフの向上心は衰えることはない。

【文中の写真は㊦九州ゴルフ連盟の水田理事長と矢次】



【全国大会への出場権を獲得した選手】



【上位入賞の選手たち】

<10月31日>

女子優勝・瀧下真弓(59歳、ザ・クイーンズヒル)

ネット65(H15、グロス80)



ちょっとした勘違いが初優勝につながった。瀧下のハンディは15だったのだが、本人は13と思い込んでいた。アウトもインもともに40。1バーディー、9ボギーの内容だが、ダブルボギーを叩いてもおかしくないホールもあったが、踏ん張った。「ハンディが少ない(13)と思っていたので、頑張らないといけない、

と。それが良かったのかも。少なくてラッキー」と瀧下は相好を崩した。

ゴルフを始めたのは50歳を過ぎてから、と遅い。今大会にも出場しているご主人の恒一さんから「一緒にしよう」とクラブを買ってもらったのだが、本格的にゴルフに取り組むようになったのは=ザ・クイーンズヒルGCのメンバーになった6年前からだ。今ではゴルフに「病みつきになり、誘われたらすぐ行く」という。競技ゴルフの「どきどきわくわく感もたまらない」と目じりを下げる。

ベストスコアは80。何度も経験しているが、80の壁が破れない。今大会も同じ数字に終わった。「目標は70台です」。このスコアを全国大会で出せたら最高だが、「大叩きをしないよう、みんなの分まで頑張ってきます」と謙虚に抱負を述べた。

【文中の写真は㊦水田九州ゴルフ連盟理事長と瀧下】



【全国大会への出場権を獲得した選手】



【上位の選手たち】

男子優勝・宮原民哲(50歳、志摩シーサイド)

ネット62(H14、グロス76)



笑顔が止まらない。うれしいうれしいホームコースでの初優勝だ。「大好きな志摩で優勝できて良かった」と宮原が喜びをはじけさせた。21歳の飯盛とネット62で並んだものの、マッチングスコアカードで栄冠を手にした。

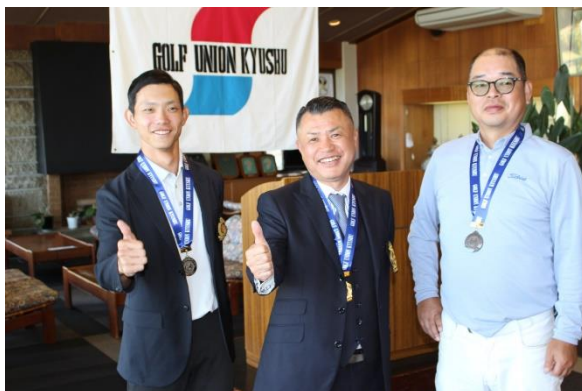
インスタートの前半こそ1バーディー、1ボギーのハーフ自己ベストの36とナイスプレーだったも

の、後半のアウトは4番からの4ホールでスコアを5つ落とすなど苦しんだ。だが、最終9番で上からの3本のバーディーパットを決めたのだが、この一打で生き残った。

今大会出場の稚恵夫人は同じ志摩シーサイドCCのメンバーで、九州ゴルフ連盟のコース査定専門委員。昨年はこの大会の上位に入り、全国大会に出場した。「みんなから『夫人のキャディー？それとも運転手』とひやかされていましたが、これで胸が張れます」とエッペンである。その奥さんとは「家庭内ライバル、刺激になります」といい関係も強調した。

表彰式では＝当クラブの理事長でもある九州ゴルフ連盟の水田理事長から「日本一を目指して頑張ってください」とのメッセージを受け、宮原が「日本一を目指したい」と応じた。「体形が似ている」とプロの今平周吾を手本にする161㌔の宮原が、12月の千葉でどんな笑顔を披露するか。

【文中の写真は㊦志摩シーサイドの宮川支配人、㊧は宮原、㊨は稚恵夫人】



【全国大会への出場権を獲得した選手】

【上位の選手たち】